

令和5年度 地産地消コーディネーター育成研修会 開催案内

～施設給食における地場産物の利用拡大に向けて～

令和5年9月

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

(まちむら交流きこう)

I 開催のねらい

地域で生産された地場産農林水産物・食品(以下「地場産物」という)を、地域内で消費・活用する「地産地消」の取組は、味覚や鮮度の良さ、産地が近く、生産者の顔が見える等の安心感、旬の食材の手頃感など、地域内外の消費者から支持を集めております。

特に、学校給食、病院、福祉施設等の施設給食では、食育の推進や健康維持、地域貢献、SDGs への取組等の観点から、地場産物を積極的に使用する動きが広がってきています。また、身近な地場産物で、生産者や生産過程などを知ることは、食べ物や地域産業への関心・感謝の気持ちを深めるとともに、地産地消による生産者と消費者との交流は、地域全体の連携を築き、地域の活性化にも貢献しています。

しかし、昨今の生産現場では、生産者の高齢化や天候不順等を伴う供給量の確保や納入体制での負担等の課題があり、給食現場では、限られた食材費や人手不足、物価高騰等の中で、経費削減や作業負担の軽減が課題となっています。

そのような中で、施設給食での地場産物活用を進めるには、地場産物を利用する給食側と、供給する生産者側の間をつなぎ、課題解決や情報共有等をはかる調整役(地産地消コーディネーター)の役割が重要となります。

そこで、その調整役となりうる人材育成に資することを目的に、「地産地消コーディネーター育成研修会」を開催いたします。実践事例を中心に、様々な主体との連携、地場産物活用等の具体的な手法や工夫等の情報共有を通じて、施設給食等での更なる地産地消の推進に繋がります。

II 実施内容

1 開催日時

令和5年11月29日(水)13:00～17:30

2 開催会場

(1)会場参加(定員 40 名程度)

小平ファーマーズ・マーケット 2階会議室 〒187-0032 東京都小平市小川町 2-1827

(西武多摩湖線 青梅街道駅(JR 中央本線「国分寺駅」から2つ目) 徒歩2分)

(2)オンライン参加

①ライブ配信

YouTube での配信を予定しています。

開催前日までに、視聴ページ URL 等をメールでお知らせします。

②アーカイブ配信

令和5年12月中旬～令和6年3月末までの配信を予定しています。

配信の準備が整い次第、視聴ページの URL とパスワードをお知らせします。

3 プログラム(案)

別紙 1 を参照ください。

4 参加方法

- ・研修会への参加(視聴)は無料ですが、事前のお申し込みが必要です。
- ・お申込は、別紙 2「参加申込書」(FAX 又はメールで送信ください)、または、応募フォーム(Google フォーム)、もしくは、メールに直接記入(都道府県・市町村、ご所属・部課名、お名前、ご連絡先(電話、メールアドレス)、参加希望内容)のいずれかで、当事務局までお申込ください。申込後、1 週間以内に受付メールをお送りいたします。

※(1)会場参加、(2)-②ライブ配信の申込締切日は、令和 5 年11月24日(金)です。

定員になりましたら、締切日前でも受付を終了する場合がありますので、お早めにお申し込みください。

お申込み後、参加内容に変更がある場合は、開催 1 週間前までに当事務局へご連絡をお願いします。

※アーカイブ配信は、配信終了までは、いつでもお申込み・ご視聴いただけます。

※会場参加とライブ配信にお申込みの皆様には、アーカイブ配信の視聴ページもご案内いたします。

5 その他・留意点

(1)会場参加について

- ・会場までの交通機関、宿泊については、各自でご手配・ご負担ください。
- ・昼食は済ませてから、お越しください(会場内での飲食は可能です)。
- ・研修会終了後、参加者交流会を予定しております(希望者のみ/2 時間程度/会場周辺、又は国分寺駅周辺/会費 5,000 円程度)。
- ・体調不良の症状がある方は、会場への入室をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

(2)動画配信について

- ・ご視聴は、パソコン、タブレット、スマートフォンをご利用ください。
*職場のパソコン等の場合、セキュリティ等の関係で繋がらない場合があります。その場合は、私用の端末(スマートフォン等)をご利用いただくなどでご対応ください。
- ・ご視聴には、インターネット環境が必要です。データ通信量等にはご注意ください。
- ・配信の動画を録画しての視聴や使用は、固くご遠慮願います。

Ⅲ 主催・事務局(お問合せ・お申込み先)

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう) 業務 2 部 地域活性化チーム
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5 階
電話 03-4335-1984 FAX 03-5256-5211 E-Mail chisan@kouryu.or.jp

○開催案内・参加申込書等の掲載ページ(まちむら交流きこうサイト内)

<https://www.kouryu.or.jp/service/chisanchisho.html>

○応募フォーム <https://forms.gle/wsSfVwds4DUoP5Cv5>

まちむら交流きこう
地産地消のページ



応募フォーム
(Google)



令和5年度 地産地消コーディネーター育成研修会 プログラム(案)

◆日にち:令和 5 年 11 月 29 日(水) ◆場所:小平ファーマーズ・マーケット 2階会議室(東京都小平市)

時間	項目	内容 ※タイトルは仮題・敬称略
12:30~	受付開始	※2階の会議室前で受付いたします(11:30頃から開場)。
13:00~	開会・挨拶	
13:15~ (45分)	講座 1	「地産地消コーディネーターの仕事と心得」 特定非営利活動法人素材広場 理事長 横田純子
14:05~ (45分)	講座 2	「(株)大塚製薬工場の社員食堂が進める地産地消の取組」 (株)大塚製薬工場 総務部 社員食堂 管理栄養士 前田翼
14:50~	休憩	
15:10~ (45分)	講座 3	「学校給食への出荷を中心とした地場産農産物増産の取組」 JA 東京むさし小平支店 指導経済課
16:00~ (45分)	講座 4	「地場産物供給を支える雲南市(行政)の取組」 雲南市 農業畜産課 産直振興推進官 須山一
16:45~	質疑応答	
17:00~ (25分)	講座総括	千葉大学大学院園芸学研究院 教授 櫻井清一
17:25	閉会	※閉会后、バックヤード等の見学を予定しています。

※研修会終了後、参加者交流会を予定しております(希望者のみ・会費 5,000 円程度)。

※諸般の事情により、内容が変更する場合がございます。予めご了承ください。

○会場までの地図

会場下は、「小平ファーマーズ・マーケット」(ブルーベリー栽培発祥の地、小平市。当JAエリア内で最大の農産物の売場面積を誇る直売所)です。この機会に、ぜひご見学ください。

小平ファーマーズ・マーケット ムーちゃん広場 (〒187-0032 東京都小平市小川町 2-1827)

最寄駅:西武多摩湖線 青梅街道駅 (JR 中央本線「国分寺駅」から 2 つ目)から、徒歩 2 分



講師等のご紹介(敬称略)

横田純子 特定非営利活動法人 素材広場 理事長(福島県会津若松市)

福島県会津若松市出身。(株)リクルート「じゃらん」勤務を経て、2005年に独立。会津若松市を拠点に、生産者と旅館・ホテル等を結びつける会員制組織「素材広場」の代表として、福島県内の生産者の食材と地産地消に取り組む温泉旅館等をつなぐ地産地消コーディネート事業を展開している。料理人と生産者の交流会や産地見学会等の開催、食材調達・仕入れの仲介や商品開発の提案など、生産者と宿泊事業者等を食材でつなぐ取組を実践している。観光プロデューサーとしてコンサルタントも行う「つむぎ企画」代表としても活躍中。農業と観光が一体化した取組で、観光業や地域の活性化につなげている。

前田翼 株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂 管理栄養士(徳島県鳴門市)

大塚グループ発祥の会社である大塚製薬工場は、輸液製剤の国内シェア過半数を占めるリーディングカンパニーで、テレビCM等でもおなじみの経口補水液「オーエスワン(OS-1)」、「オロナインH軟膏」等を製造している。平成元年1月より、自社直営による社員食堂“cafeteria NARUTO”を開設。所在地が徳島県という地の利を生かし、お米や野菜、肉や魚、醤油や味噌など徳島県産の食材を積極的に使用。社員向けに定期的実施する栄養に関する講習会や食堂内の掲示板等で地場産物を紹介している。また、管理栄養士が自ら生産者の元へ出かけ、食材の開拓や直接取引を行うなど、地域とのつながりも広げている。

JA 東京むさし小平支店 指導経済課(東京都)

JA 東京むさし小平支店では、小平市と協力して、市内19の小学校と学校給食センターの調理場へ、市内産物を供給している。受注、出荷調整、配送、精算等の調整役を、JAが一括で担うことで、生産者の負担を軽減。安定した供給体制により、生産拡大(農地保全)、後継者確保、生産者の所得向上等につながっている。品物の規格や品質等は、市内栄養士との目合わせ会ですり合わせ。また、市内産物の活用拡大の機会として、年2回、市内統一の地産地消献立(「小平夏野菜カレーの日」、「小平冬野菜煮団子の日」)を企画。提供される同じ日には、市役所の食堂でも販売し、地産地消活動のPRの場としている。

須山一 雲南市農業畜産課 産直振興推進官(島根県)

JAしまねでの勤務を経て、2022年から現職。JA勤務時代、JAと18箇所の直売所をネットワーク化し、保冷車で管内を巡回して集荷することで、農産物の鮮度保持や高齢者等の出荷をサポートする体制整備に貢献。当時から、「地産都消」を掲げ、大消費地のサテライトショップには、自ら集荷販売を実践した。現在は、市の職員として、これまでの現場経験を踏まえ、中山間地域の生産者等に必要な支援事業を積極的に推進。各直売所のQRコード付き紹介パンフレットの作成、ビニールハウス設置支援、生産者の漬物づくりの支援など、市で予算化し、JAと連携して進めている。

櫻井清一 千葉大学大学院園芸学研究院 教授

1967年群馬県生まれ。東京大学文学部社会学科卒。1989年より農水省中国農業試験場(現:西日本農業研究センター)にて農産物流通の調査研究に従事。2001年より千葉大学園芸学部助手に着任し、2010年より園芸学研究科教授。農業経営学会学術賞・農業市場学会学術賞・農村生活学会学術賞受賞(いずれも2008年)。主な研究テーマは、「農産物および加工食品のマーケティング論(青果物を中心に)」、「農産物直売活動(農産物直売所の組織運営、出荷者の行動、直売を介した生産者と消費者の交流など)」、「農村部における社会関係資本の分析(農村の伝統的集団と新たな組織の評価、住民意識の変化等)」、「農村経済の多角化(都市農村交流事業の評価、ローカル・フードシステム、中小食品企業の連携等)」。